

# 合併協議会だより

## No.6

2002.3.26 発行



### 将来構想まちづくりビジョン

#### 氷上郡の将来像

## 豊かな自然と歴史文化が織りなす 21世紀に輝く人と自然の交流文化都市

新しい地域が一体となって高齢社会に備え、健康・福祉需要に対応するほか、次代を担う人づくりを進めるために、教育環境の充実を図ります。

環境問題への取り組みとともに災害に強いまちづくりを進め、住民一人ひとりが豊かな生活を実感できるまちづくりを目指します。

地域が平等に発展し活力ある都市づくりを進めるため、広大な地域内の連携を図るとともに、広域圏との交流を促進します。

広大な地域が一体となることによって生じる住民と行政との距離感や発展の地域間格差などの不安解消に努め、住民が誇りを持てるまちづくりに向けて、住民主体の魅力と活力ある新しいまちづくりを進めます。

### 将来像を支える3つの基本理念

いつまでも  
健康で安心して  
暮らせるまち

人と人、人と自然が  
共生し、未来に  
つながるまち

地域を支える  
にぎわいと  
活力あるまち

そして、将来構想（まちづくりビジョン）をもとに、より多くの住民とともに合併のあり方について議論を展開し、コミュニケーションを図るなかで合併の是非を検討していきます。

策定したものであり、合併を前提としたものではありません。

将来構想（まちづくりビジョン）は、あくまでも合併の是非に関する方向性を確認するための手段として

まちづくりの将来像です。

将来構想（まちづくりビジョン）とは

将来構想（まちづくりビジョン）の  
案がまじまりました

将来構想（まちづくりビジョン）について

# 将来世代に安心して暮らせるまちの基本理念

いつまでも健康で安心して暮らせるまち

健康・福祉サービスの強化・充実を進め、若者から高齢者まであらゆる年齢層の人が健康で安心して暮らすことができる生活環境を創出します。

人と人、人と自然が共生し、未来につながるまち

恵まれた自然環境との調和を図りつつ、地域固有の歴史・文化を生かしながら、ゆとりと潤いのあるアメニティの高いまちづくりを目指します。

また、次代を担う子どもたちの健全育成や生涯学習の推進など、人づくりから地域づくりを進めていきます。

地域を支えるにぎわいと活力あるまち

新しい地域が一丸となって地場産業の振興、商業の活性化、観光産業の育成に努め、若年層が定住する魅力と活力あるまちづくりを進めます。そのため地域内および広域圏の活発な交流連携を進めます。そして住民参画によるまちづくりを進め、住民が誇りをもてる新しい地域づくりを目指すとともに、地域コミュニティも大切にしましたまちづくりを進めます。

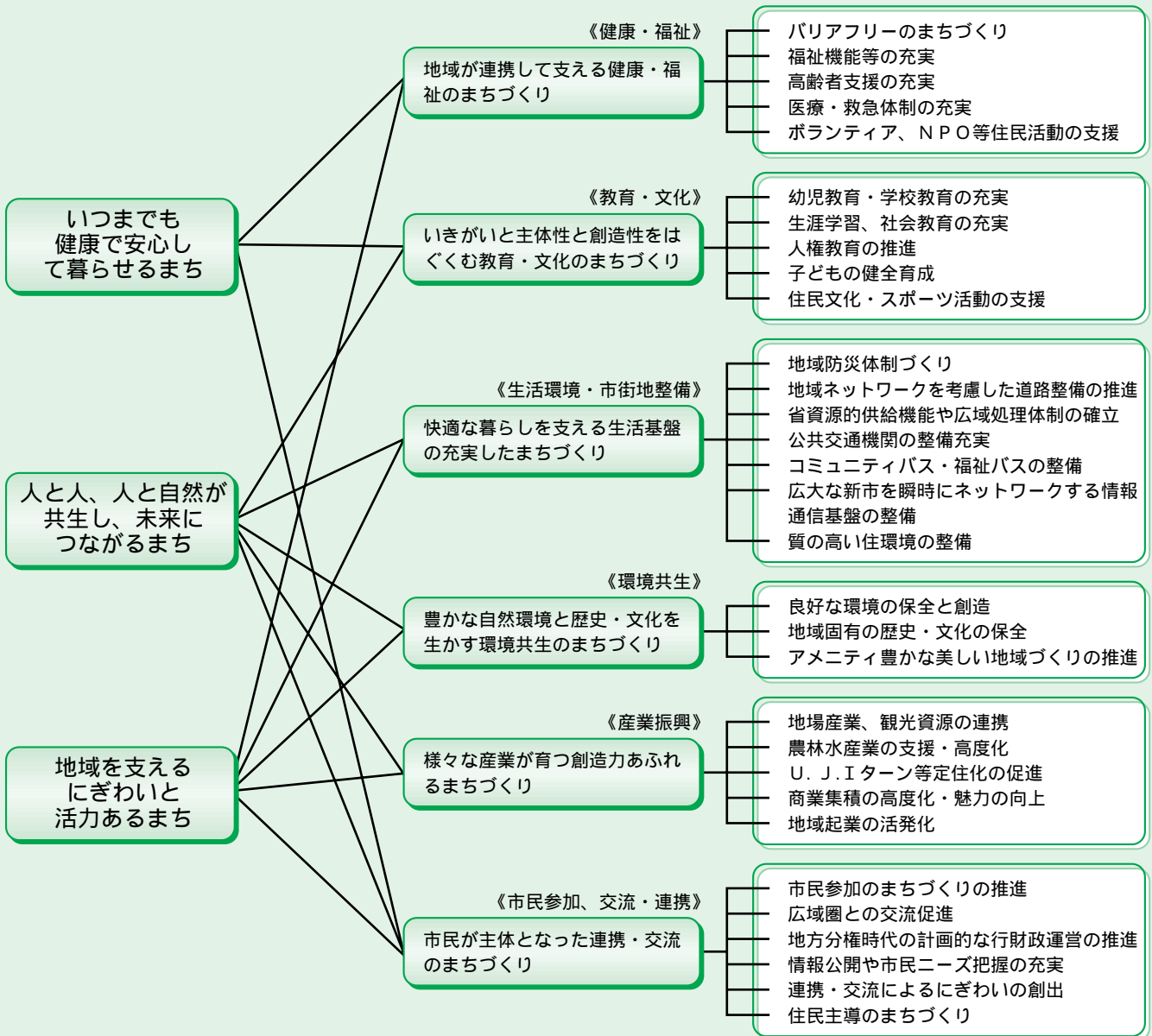
これらまちづくりの基本理念を踏まえた上で、新市のまちづくりの具体的な目標として、下記の6つの項目を設定します。そして、その目標に沿った具体的なプロジェクト(例)を示します。



## 【基本理念】

## 【目 標】

## 【プロジェクト(例)】



# 氷上郡6町の将来について。 考えてみましょう。

現在、全国の地で「将来のまちづくり」のため、合併協議が進められています。

では、なぜ今、市町村で合併協議が盛んに行われているのか、まちをとりまく環境の変化について4つの項目で示します。

## 国や県にたよらない自治づくり

（地方分権への対応）

～多様化・高度化する行政サービスに対応できるか？

・これからの地方自治は、地域の特性を尊重しながら、自らの責任において、住民の意見を反映できる行政サービスや施策を決定し、それらに積極的に取り組まなければなりません。

・今まで国や県の責任であった権限を進んで譲り受け、住民が望む高度で専門的なサービスを市町村が提供できる力をつける必要があります。

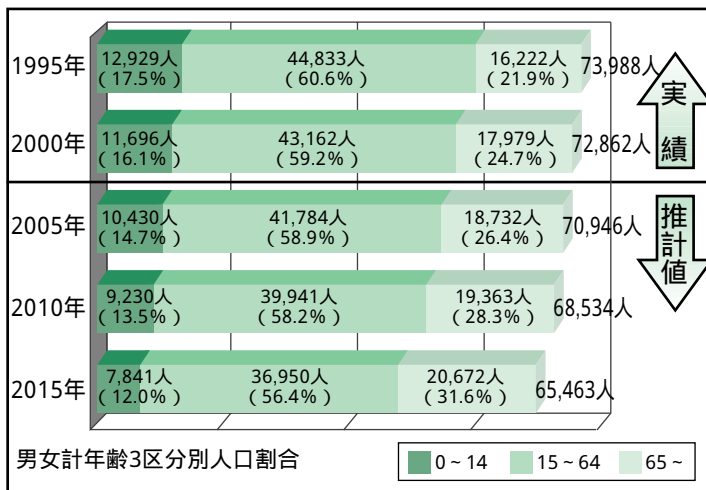
・多様化・高度化する行政ニーズに対応できなければ、地域間の競争に生き残ることは難しく魅力のある他の地域へ住民が移り住むこととなります。

## 少子高齢化への取り組み

～人口減少や人口バランスの悪化に歯止めをかけられるか？

・氷上郡6町の将来推計人口によると、今後十年～十五年には、七万人を割り込むことが予想されます。また、県平均を上回る高齢化率は、二十五年では約三〇%（三人にひとりが高齢者）を超えることが予想されます。

## コーホート要因法による将来人口推計



## 生活行動圏の広がり

～住民の広域的な利用ニーズに対応出来るか？

・住民意識調査によると、日用品以外のものは、流出が少ないところでも約半数が他の市町まで出かけ、多いところでは九十%以上の人々が町外へ出かけている状況です。

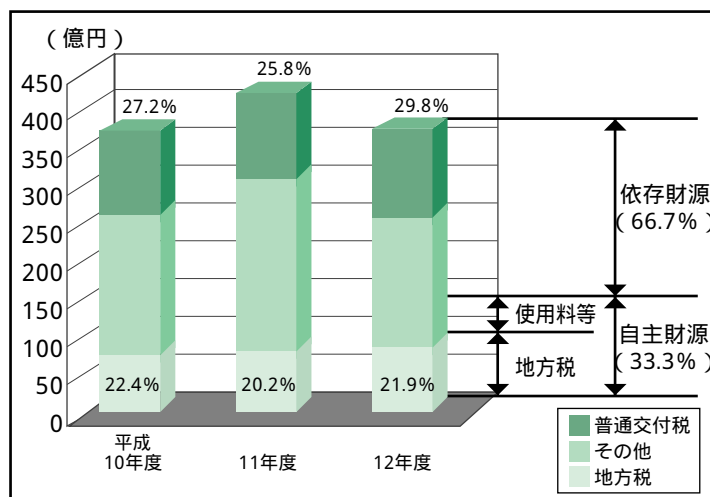


## 財源確保への取り組み

～コスト削減や税収確保を行いながら、行政サービスの維持向上が図られるか？

・氷上郡6町を含めてほとんどの市町村は財源の多くを国や県にたよっています。例えば、平成十二年度では、普通交付税を含む国や県への依存財源は約六・七%ありますが、地方税をはじめとする自主財源はわずか三三・三%程しかありません。

## 氷上郡6町の普通会計歳入総額に対する普通交付税及び地方税の割合



このような問題を解決していくためには小さな行政区域では限界があります。これらの問題を解決する方法の一つと言われている「合併」について考えて行く必要があります。皆さんも、氷上郡6町の将来について合併が必要かどうか考えてみてください。

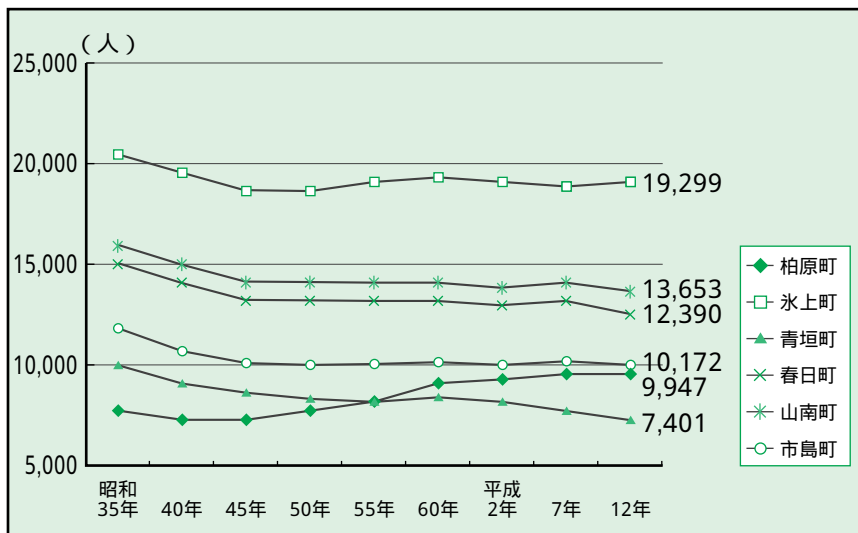
# 数字で見てもよっ水上都6町のまちのすがた

ここでは、各種の統計データなどを利用して、水上都6町の現状について、人口の推移や今後の見込み、鉄道、バスなどの状況、財政指標に関するデータについて、紹介したいと思います。

## 人口の推移

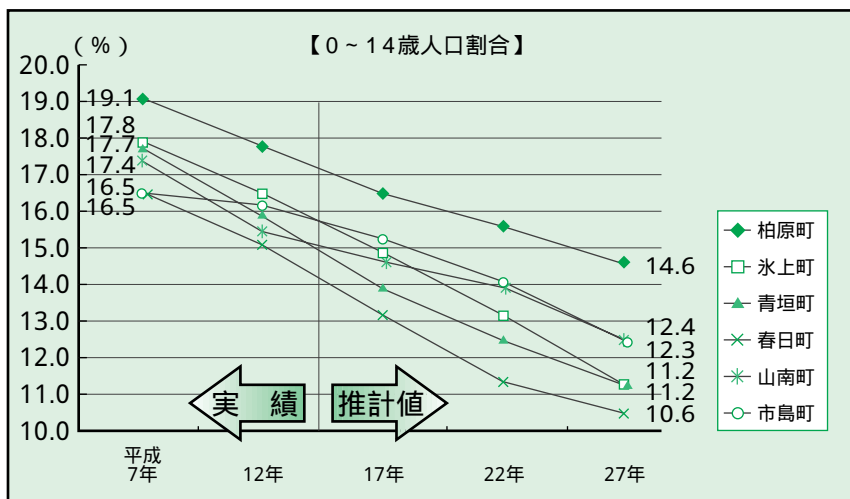
最近二〇年間でみると、水上都全体では減少傾向にあります。一方、柏原町のみが増加傾向にあります。

## 人口の推移



資料：国勢調査

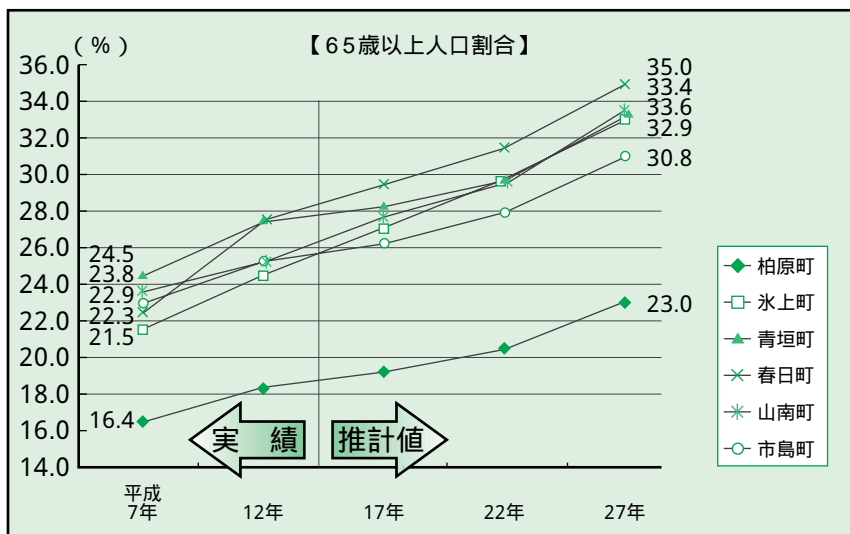
## 年少人口割合の推移と今後の見込み



## 年少人口、高齢人口の推移と今後の見込み

各町ともに少子高齢化が進行することが予想されます。一〇〜一五年後には、年少人口割合が低い町では一〇%近くになり、高齢人口割合が高い町では三〇%を超えることも予想されます。

## 高齢人口割合の推移と今後の見込み



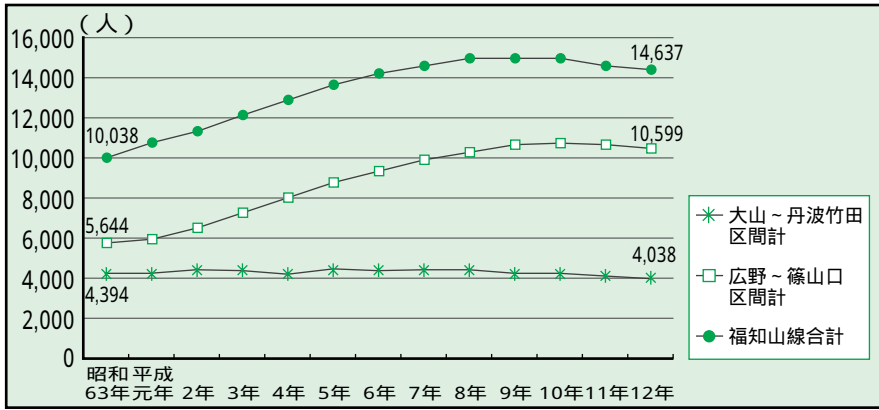
1) 推計にあたっては、コーホート要因法を用いています。方法としては、ある年齢集団の数に、生残率と純移動率の和を掛け合わせて、その年齢集団の5年後の数を推計し、すべての年齢集団についてこのような計算を重ね、目標年次の人口を推計します。(あくまでも推計であり、参考程度に留めておく必要があります)



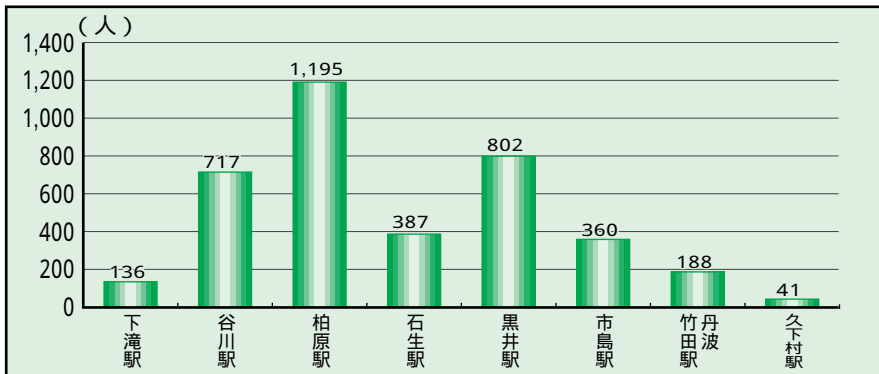
一日あたりの鉄道乗車人員については、平成八年をピークに減少傾向にあります。所要時間としては、柏原駅及び谷川駅から大阪駅まで特急電車を利用した場合、約一時間十分程度となっております。ただし、特急電車を利用しない場合、篠山口駅で乗り換えが必要な場合もあり、柏原駅及び谷川駅から大阪駅まで約一時間三〇分程度、また、丹波竹田駅から大阪駅まで約二時間程度要する状況です。

また、平成十二年における鉄道駅別では、バス路線網の起点となっている柏原駅、黒井駅、谷川駅の順で多くなっています。

### 駅別1日平均乗車人員の推移



### 平成12年における郡内の1日平均乗車人口



以上、資料：JR篠山口鉄道部

### 駅別1日平均乗車人員の推移

系統	運行系統			当該系統に係る関係市町名	系統キロ程	運行回数(回)	密度(人)
	起点	主な経由地	終点				
672	篠山営業所	西紀町庁舎前	柏原駅	篠山市・柏原町	往18.5km 復18.5km	平日6.0 土曜6.0 休日4.0	3.9
680	柏原駅	氷上庁舎柳町	佐治	柏原町・氷上町・青垣町	往20.6km 復20.6km	平日0.5 土曜0.5 休日0.5	3.7
681	柏原駅	石生駅前柳町	佐治	柏原町・氷上町・青垣町	往20.0km 復20.0km	平日5.0 土曜5.0 休日4.5	5.4
684	柏原駅	石生駅前井中	佐治	柏原町・氷上町・青垣町	往18.9km 復18.9km	平日1.5 土曜0.5 休日0.5	5.2
685	柏原駅	氷上庁舎井中	佐治	柏原町・氷上町・青垣町	往19.5km 復19.5km	平日1.0 土曜1.0 休日1.0	3.8
686	柏原駅	氷上庁舎井中	大名草公民館前	柏原町・氷上町・青垣町	往27.0km 復26.1km	平日0.5 土曜0.5 休日0.5	4.8
687	柏原駅	石生駅前柳町	大名草公民館前	柏原町・氷上町・青垣町	往27.5km 復26.6km	平日3.5 土曜3.5 休日3.0	5.0
691	柏原駅	丹波の森公苑	柏原病院	柏原町	往 2.2km 復 2.0km	平日6.0 土曜2.5 休日2.5	2.3
692	柏原駅	室谷	柏原病院	柏原町	往 1.4km 復 1.2km	平日7.0 土曜2.5 休日2.5	2.2
705	柏原駅	黒井駅三井庄	野瀬	柏原町・春日町	往21.5km 復21.5km	平日2.0 土曜2.0 休日2.0	5.5
727	黒井駅	三井庄	野瀬	春日町	往13.6km 復13.6km	平日3.0 土曜3.0 休日3.0	2.0
736	坂尻	富田橋	谷川駅	山南町	往11.1km 復11.1km	平日6.0 土曜6.0 休日5.0	2.5

密度とは、各運行バスの平均乗車人員のこと(走行時)で、あくまでも目安です。  
資料：神姫バス株式会社(平成11年10月1日~平成12年9月30日)

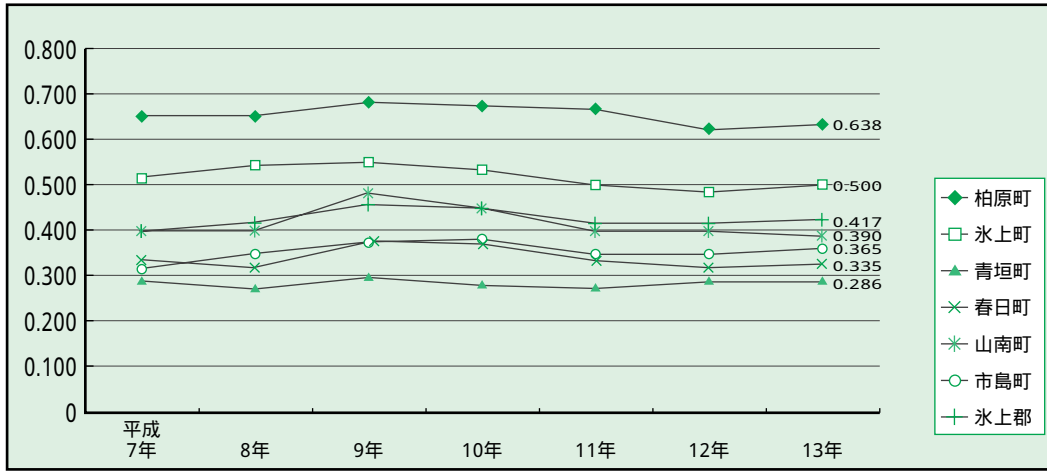
図は平日の本数を示しています。関西記念墓園行きについては、他の路線とは異なり、一般町民の生活路線としての位置づけがされていないため、表には掲載していません。



資料：神姫バス株式会社

氷上郡におけるバス交通は、柏原駅、黒井駅、谷川駅を起点にネットワークが形成されています。運行本数としては、柏原駅から柏原病院が十三本/日で最も多くなっています。郡内各町間を結ぶ路線では、柏原町と青垣町間が特に多くなっています。

## 財政力(単年度)の指数の推移



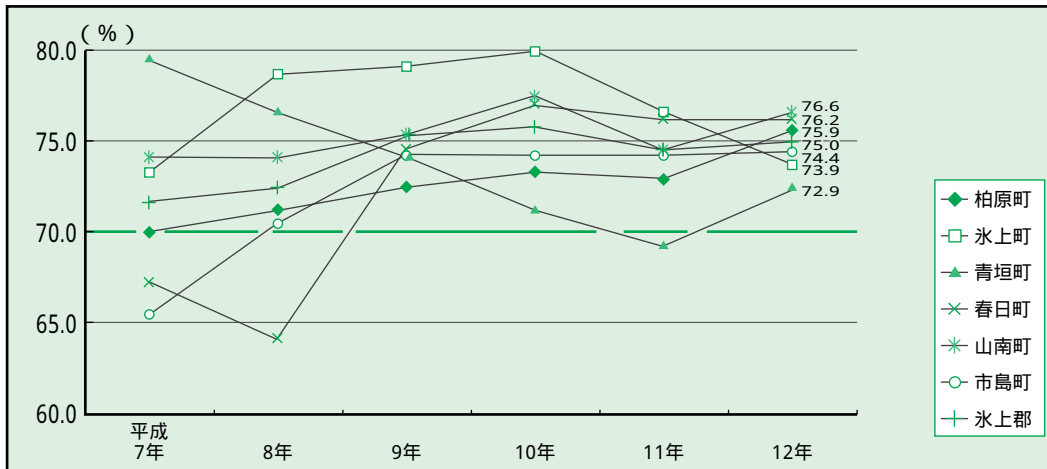
資料：現況調査による

### 財政力指数の推移

平成七年度から平成十三年度にかけて、氷上郡全体としては概ね〇・四から〇・四五程度で推移しています。町別では、この間、柏原町が最も高い値となっています。

2)

## 経常収支比率の推移



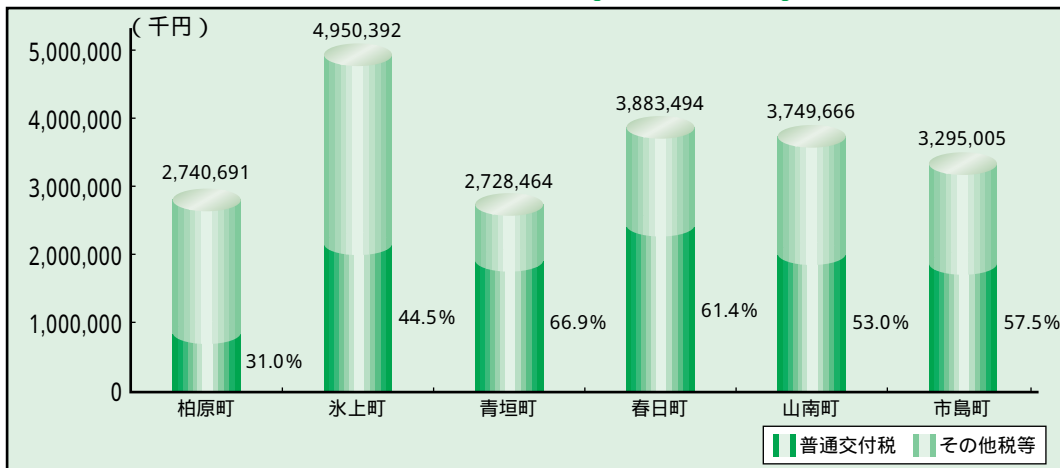
資料：各町決算統計

### 経常収支比率

氷上郡においては、各町ともに概ね七五%前後になっていきます。この比率が高いほど多様なニーズに対応できない財政構造になっていることを意味し、財政の硬直化が進んでいることとなります。

3)

## 経常一般財源総額と普通交付税の割合(平成12年度)



資料：各町決算統計

### 経常一般財源総額と普通交付税の割合

平成十二年度決算の経常一般財源総額のうち普通交付税の占める割合については、各町別にそれぞれ三〇%～六五%程度依存している状況が見受けられます。

4)

2) 財政力指数は、標準的な行政活動を行う財源をどの位自力で調達できるかを表した指標です。「1」に近いほど、あるいは「1」を超えるほど財源に余裕があるものとされています。

3) 経常収支比率とは、財政構造の弾力化を判断するための比率で、地方税、普通交付税を中心とする経常一般財源が、人件費・扶助費・公債費等の義務的な性格の経費にどの程度消費されているかをみるものです。一般的には、都市にあつては75%、町村にあつては70%程度が妥当と考えられています。(数値が低いほど良いといえます)

4) 地方税、地方譲与税、普通交付税等毎年度連続して経常的に収入される用途が特定されない一般財源のことを指します。

## みんなの声 (意見集より)

時代の趨勢すうせいとはいえ「合併」という大きな問題を協議する皆さんは、地域住民の代表として、住民の幸せを最大限に考え、日夜、合併について検討されていることと思います。ご苦労様です。このHPに掲載されている意見を読ませていただきました。それを見て思ったことは「皆さん真摯しんしんに合併問題を受け止め、考えているなあ」ということです。今日の合併はこれまで中央集権主体の合併とは異なり、自らが考え、進めていくものであり、「自己決定、自己責任、自己負担」の地方分権の考え方に基づくものです。したがって、住民の皆さんの意見が十分に反映された合併であるべきですし、そうでなければ住民の信頼が得られません。そういう意味では、たとえ「賛成」でも「反対」でも、自己の意見を主張してくれるという

のは非常にいいことだと思います。ただ、いくつかの意見の中に「情報が不十分」とのご意見がありました。これは少し疑問です。情報というのは、必要な人が、必要な情報を自分で取得するのが本来ではないでしょうか？口を開けて待っていて、情報が入ってくると考えるのは稚拙ちじつです。私は、公務員という職業だからかもわかりませんが、自分の住む地域の合併問題や情報については、極力手に入れるよう努力しています。また、ネットでも全国各地の合併情報もなるべく見るようにしています。ですから「情報不足」だとは思いません。氷上郡でも協議会の広報やこのHPで、いろいろな情報が示されるのですから、これを見て判断すればよいのです。私はそう思います。

合併特例法の期限まであと3年あまり。決して長くはないですが、このわずかな期間の間に、地域の将来の方向性を見据えることは容易ではありません。が、特例法期限以降の合併では全く意味がありません（と、思います。）今必要なことは、行政と住民が一緒に膝を交えて、地域のまちづくりをどのようにしていくかを考えていくことではないでしょうか？その手

段のひとつが「合併」です。合併は、住民の幸せを考えるための手段であり、目的ではありません。自分の住むまちに、最善の手段は何かを考えましょう。そのためには、自分で情報入手しましょう。「受け身」ではまちづくりはできませんよ！（30代 男性より）

今日、懇談会に参加させていただきました。ちよっぴり年輩の方が多く中で、若輩者は私くらいなものでしたでしょうか。私たち30代ころの世代の参加が多くないと感じました。

生意気かもしれませんが、少なくとも10年、20年後は、まさに私たちの時代なんですから・・・。合併するかもしれない時期、そして合併して間もない時期、そんな時期がちょうど私たちの時代なことです。目の前に控えた時期のことこそ、具体的に描けないでは、まちづくりの構想も描けないでしょう。

協議会委員の皆さん、どうか私たちのような、ちよっぴり皆さん方の息子や娘たちの世代の声こそ、拾い上げてください。

私たちも、積極的に声を上げさせていただきます。（30代 男性より）

### 協議会運営小委員会を設置しました

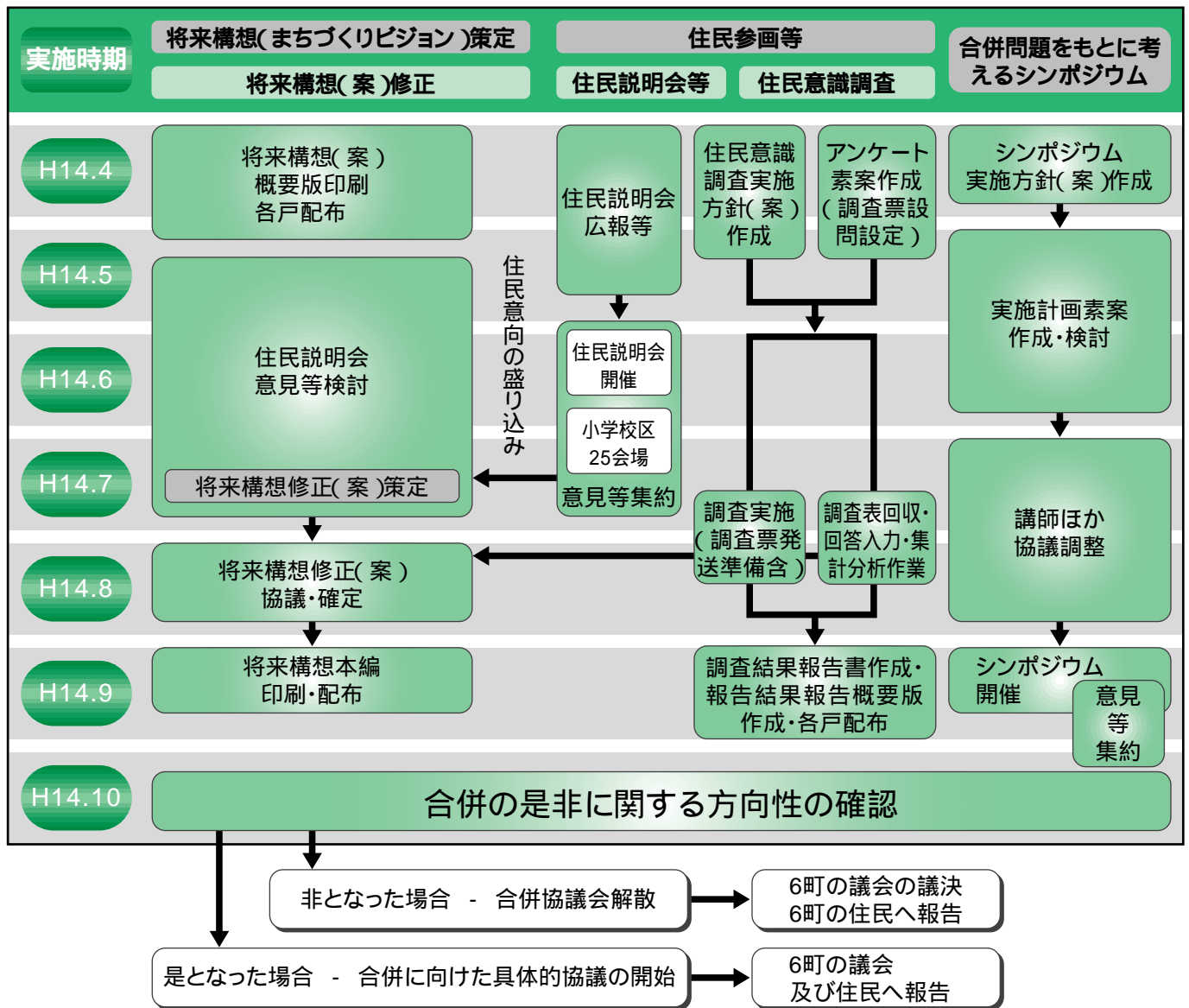
合併協議会の事業を推進するにあたり、運営していく上でのさまざまな課題について、専門的に調査研究を行い、協議会活動の効率のかつ効果的な推進を図るため、協議会運営小委員会を設置しました。

委員長	近藤 寛治（2号委員）	井本 幹博（1号委員）
副委員長	田中 重雄（3号委員）	常岡 昌和（3号委員）
委員	梅垣 隆（1号委員）	田村 満雄（3号委員）
	柳川 瀬義輝（2号委員）	吉見 徳美（3号委員）
	廣瀬 隆己（3号委員）	
	竹内 功吉（3号委員）	



第1回小委員会を開催

# 平成14年度合併協議会事業計画



\*\*\*\*\*

## 編集後記

合併の是非に関する方向性を確認する上で、重要な判断材料と位置付けた将来構想(まちづくりビジョン)がいよいよまとまりました。単なる新市のイメージとしてとらえるのではなく、氷上郡6町が現状として抱える問題・課題を理解するとともに、解決の方策を求めるための手段として、新市の姿を描いてみて、合併が必要かどうかを議論していくことが大切です。

6月から7月にかけて、各小学校区単位で住民説明会が開催されます。それまでにしっかりと概要版をお読みいただき、個人的なメリットやデメリットにとらわれず、合併問題の本質とは何なのかを考え、説明会には概要版を持ってご参加下さい。一緒に考えていきましょう！

\*\*\*\*\*

## 将来構想(まちづくりビジョン)概要版の全戸配布

4月下旬から5月中旬に、概要版を町広報とあわせて全戸配布いたします。6月以降に開催予定の住民説明会の資料にもなりますので、説明会参加時にご持参下さい。

## 合併協議会開催のお知らせ

### 第14回 合併協議会

日時 14年4月23日(火) 午後1時30分より  
会場 氷上町公民館(氷上町成松)

### 第15回 合併協議会

日時 14年5月17日(金) 時間未定  
会場 青垣町民センター(青垣町佐治)

### 第16回 合併協議会

日時 14年6月22日(土) 時間未定  
会場 ハートフルかすが(春日町黒井)

発行/柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町合併協議会

住所/〒669-3309 兵庫県氷上郡柏原町柏原525-1 氷上郡民会館内 TEL/0795-73-3122 FAX/0795-73-3123  
アドレス/http://www5.nkansai.ne.jp/org/h6gappeik/ E-mail/h-gappeikyoku@mxn.kansai.ne.jp